

[研究ノート]

中央学院大学『商学部入門講座』の開講主旨と
その具体的授業運営について（下）古谷正勝
椎名市郎
山田壽一

- 〈目次〉
- I 日本の大学改革の方向性と中央学院大学商学部カリキュラム改革
 - (1) 日本の社会構造の変化と大学改革
 - (2) 中央学院大学商学部カリキュラム改革の概要
 - ① 平成6年度一部実施、平成7年度全面実施の新カリキュラムの概要
 - ② 平成7年度のカリキュラム関係の改善
 - ③ 平成8年度、9年度カリキュラム関係の改善
 - II 「商学部入門講座」の開講主旨とカリキュラム改革
 - (1) 「商学部入門講座」の開講主旨
 - (2) 「商学部入門講座」の目的とその機能
 - III 「商学部入門講座」開講に至るまでの経過とその授業運営方法
 - (1) 教授会および教務委員会における審議過程での商学部入門講座の展開
 - (2) 平成6年度（開講1年目）における商学部入門講座の授業運営
 - ① 授業運営および日程等
 - ② 単位認定
 - ③ 平成7年度の商学部入門講座にむけて
 - (3) 平成7年度（開講2年目）における商学部入門講座の授業運営

- ① 授業運営および日程等
- ② 単位認定
- ③ 平成8年度の商学部入門講座にむけて
- (4) 平成8年度（開講3年目）における商学部入門講座の授業運営
 - ① 授業運営および日程等
 - ② 単位認定
- (5) 平成9年度（開講4年目）における商学部入門講座の授業運営
 - ① 授業運営および日程等
 - ② 単位認定

（以上、第12巻第2号所収）

- (6) 平成10年度（開講5年目）における商学部入門講座の授業運営
 - ① 授業運営および日程等
 - ② 単位認定

IV 「商学部入門講座」に対する学生の授業評価とその問題点

- (1) 「商学部入門講座」の開講主旨とその機能
- (2) 平成6年度——「商学部入門講座」初年度のアンケート調査とその反省・改善点
 - ① 平成6年度前期7クラス授業評価の概要
 - ② 平成6年度前期7クラス授業評価で注目すべき教育効果
 - ③ 平成6年度後期6クラス授業評価の概要
 - ④ 平成6年度——「商学部入門講座」初年度のアンケート調査とその反省・改善点
- (3) 平成7年度——「商学部入門講座」2年目のアンケート調査とその反省・改善点
 - ① 平成7年度13クラス授業評価の概要
 - ② 平成7年度——「商学部入門講座」2年目のアンケート調査とその反省・改善点
- (4) 平成8年度——「商学部入門講座」3年目のアンケート調査とその反省・改善点
 - ① 平成8年度13クラス授業評価の概要
 - ② 平成8年度——「商学部入門講座」3年目のアンケート調査とその反省・改善点

(5) 平成9年度——「商学部入門講座」4年目のアンケート調査とその反省・改善点

① 平成9年度13クラス授業評価の概要

② 平成9年度——「商学部入門講座」4年目のアンケート調査とその反省・改善点

(6) 平成10年度——「商学部入門講座」5年目のアンケート調査とその反省・改善点

① 平成10年度13クラス授業評価の概要

② 平成10年度——「商学部入門講座」5年目のアンケート調査とその反省・改善点

V 「商学部入門講座」に対する学生の授業評価の総括

VI これからの「商学部入門講座」に対する提言

——結びに代えて——

(1) 「平成11年度実施予定の商学部カリキュラム改革関係基本事項の確認」

(2) 「平成10年1月12日付、椎名学部長諮問に対する答申」

(3) 平成10年度教務委員会における「商学部入門講座改革案」

(以上、本号第13巻第2号所収)

前号においては、日本における大学改革の方向性と中央学院大学商学部のカリキュラム改革での「商学部入門講座」の意義やその構造、機能を検討した。そして、「商学部入門講座」の議論の過程を当時の教務委員会や教授会での資料を前提に詳細に検討し、その展開の中で、改めて「商学部入門講座」の開講主旨や構造、機能について再検討し、本学の教育史の記録に止めることとした。さらに、「商学部入門講座」の実際の運営方法や4年間にわたる授業運営についても検討してきた。

本号では、引き続き今年度すなわち平成10年度における「商学部入門講座」の授業運営について述べ、さらに「商学部入門講座」の5年間の授業展開の中での学生のナマの声を、そのアンケート調査を下に検討を加え、もってこれからの「商学部入門講座」のあり方を研究することとする。

Ⅲ 「商学部入門講座」開講に至るまでの経過と その授業運営方法(2)

(6) 平成10年度（開講5年目）における「商学部入門講座」の 授業運営

① 授業運営および日程等

商学部入門講座は今年度開講5回目を迎えることとなった。本来ならば昨年度までの「商学部入門講座」における授業の運営方法等について検討を加え新たな方向性を見つけなければならないのであるが、現在商学部においては、商学部カリキュラム改革が進行中であり、平成11年度から実施予定の Semester 制との兼ね合いから、「商学部入門講座」の授業運営方法等を含め、平成10年度の教務委員会において検討を加えることとなった（検討内容については「Ⅵ これからの『商学部入門講座』に対する提言」を参照のこと）。よって、平成10年度の「商学部入門講座」は昨年度までと同様な内容により実施された。

平成10年度の「商学部入門講座」の授業予定表（グループ〈クラス〉別，教室，担当科目・担当者）は資料⑳の通りであり，「商学部入門講座」のシラバスは資料㉑の通りである。

今年度の後期同一曜日，同一授業時間帯における裏講座は，昨年が4講座あったのに対し2講座（「簿記原理I」(3クラス)・「消費経済学」）となった。

② 単位認定

平成10年度「商学部入門講座」の単位認定は，平成10年10月7日拡大教務委員会において各コースの主任により例年同様の基準において判定会議が行われ，原案資料㉒の通り単位は認定された。

今年度の「商学部入門講座」の履修登録者は646名で合格者604名，不合格者は42名となり，合格者の割合は93.5%であった。

資料㉑

<1>「商学部入門講座」の授業目的について

[1] ①「商学部入門講座」は，商学系列科目の基礎教育科目であるとともに，学生が2年次より各コースに編入する場合や，また2年次からはじまる「演習I」を選択する時の判断になるような授業を目的としている。

②「商学部入門講座」は，学生諸君が1年次に既にコース選択を決めている場合でも，講義を受けることによって，他のコースの学問等の概要を知ることが有意義であるので，幅広い専門教育を学ぶ目的もあって開講されている。

[2] 平成7年度より6コースが開設され，

商学総合コース

経営コース

国際ビジネスコース

会計コース

経済コース

情報コース

このコース選択は「商学部入門講座」終了後の7月16日（木）に、希望コースを募集します。当「講座」を受講の上、コース選択の判断とする科目にしてもらいたい。

- [3] 2年次から「演習」が選択科目として設置されているが、「演習」はできるだけ受講するようにし、この「商学部入門講座」では、各先生が自分の「演習」についても説明をするので、当「講座」を「演習」選択の判断とする科目にもしてもらいたい。

〈2〉「商学部入門講座」の履修方法について

- [1] 「商学部入門講座」は、セメスター制（前期で授業を終了し合格者は4単位を修得）で実施され、週2回授業が別表のように行われる。

なお後期からは、同一曜日・同一授業時間帯に「簿記原理Ⅰ」・「消費経済学」が開設されている。

- [2] 「商学部入門講座」の授業時間・クラス・教室は次表の通りである。

1組・2組	〈火〉・〈木〉の4時限目→613教室
3組・4組	〈火〉・〈木〉の4時限目→623教室
5組・6組	〈火〉・〈木〉の4時限目→664教室
7組・8組	〈火〉・〈木〉の4時限目→651教室
9組・10組	〈火〉・〈木〉の4時限目→652教室
11組・12組・13組	〈火〉・〈木〉の4時限目→661教室

- [3] 「商学部入門講座」の論文・レポート指導および補講・追試験のクラス・教室は変更され、実施日・時間は下記のようなになるので注意すること。

但し、試験合格者は補講・追試験を受ける必要がないので、7月21日（火）の単位認定発表を注意してみること。

①クラス編成・教室

1組～4組	教室は→241教室
5組～8組	教室は→242教室
9組～13組	教室は→341教室

②実施日・時間

論文・レポート指導	7月14日〈火〉4時限目
	7月16日〈木〉4時限目

③不合格者への補講・追試験

補講・追試験	7月23日〈木〉4時限目
	7月28日〈火〉4時限目

〈3〉「商学部入門講座」の単位認定について

- [1] 「商学部入門講座」は、1年次共通必修科目で4単位とする。
- [2] 単位認定は、出席点とレポート点とを合わせて認定する。
- [3] レポート提出は、7月16日〈木〉4時限目に提出するものとし、提出期限は厳守すること。
- [4] 「商学部入門講座」の単位認定、試験合格者については7月21日（火）に教務課掲示板に発表するので、必ずみること。
- [5] 「商学部入門講座」の不合格者は、上記の日程で補講・追試験を行うので、必ず受講すること。

◎平成10年度「商学部入門講座」授業予定表

月	月・日・曜日	限目	1組・2組	3組・4組	5組・6組	7組・8組	9組・10組	11組・12組 13組
	4月6日〈月〉		商学部入門講座1年生全体ガイダンス					
4	4月14日 〈火〉	4	商学総合 高頭	経営 生田	国際ビジネス 青山	会計 田中	経済 山田	情報 柳下
	4月16日 〈木〉	4	商学総合 望月	経営 亀田	国際ビジネス 加藤（達）	会計 田中	経済 飯島	情報 大島
	4月21日 〈火〉	4	商学総合 曾我	経営 大島	国際ビジネス 崔	会計 河野	経済 岡田	情報 賀島
	4月23日 〈木〉	4	商学総合 吉井	経営 亀田	国際ビジネス 加藤（達）	会計 上平	経済 菊池	情報 星野（隆）
	4月28日 〈火〉	4	情報 大島	商学総合 高頭	経営 亀田	国際ビジネス 青山	会計 田中	経済 山田
	4月30日 〈木〉	4	情報 柳下	商学総合 吉井	経営 八木	国際ビジネス 加藤（達）	会計 田中	経済 宮阪
5	5月7日 〈木〉	4	情報 星野（義）	商学総合 望月	経営 八木	国際ビジネス 加藤（達）	会計 上平	経済 飯島
	5月12日 〈火〉	4	情報 賀島	商学総合 曾我	経営 亀田	国際ビジネス 崔	会計 河野	経済 岡田
	5月14日 〈木〉	4	経済 山田	情報 大島	商学総合 高頭	経営 亀田	国際ビジネス 加藤（達）	会計 田中
	5月19日 〈火〉	4	経済 岡田	情報 賀島	商学総合 曾我	経営 大島	国際ビジネス 崔	会計 田中
	5月26日 〈火〉	4	経済 菊池	情報 星野（隆）	商学総合 桐木	経営 大島	国際ビジネス 青山	会計 河野
	5月28日 〈木〉	4	経済 宮阪	情報 星野（隆）	商学総合 吉井	経営 亀田	国際ビジネス 加藤（達）	会計 上平

月	月・日・曜日	限目	1組・2組	3組・4組	5組・6組	7組・8組	9組・10組	11組・12組・13組
6	6月2日 〈火〉	4	会計 田中	経済 山田	情報 柳下	商学総合 高頭	経営 亀田	国際ビジネス 青山
	6月4日 〈木〉	4	会計 田中	経済 菊池	情報 大島	商学総合 望月	経営 八木	国際ビジネス 加藤(達)
	6月9日 〈火〉	4	会計 河野	経済 岡田	情報 賀島	商学総合 曾我	経営 亀田	国際ビジネス 青山
	6月11日 〈木〉	4	会計 上平	経済 宮阪	情報 星野(義)	商学総合 吉井	経営 八木	国際ビジネス 崔
	6月16日 〈火〉	4	国際ビジネス 青山	会計 田中	経済 山田	情報 柳下	商学総合 高頭	経営 加藤(達)
	6月18日 〈木〉	4	国際ビジネス 加藤(達)	会計 田中	経済 宮阪	情報 星野(隆)	商学総合 望月	経営 八木
	6月23日 〈火〉	4	国際ビジネス 青山	会計 河野	経済 菊池	情報 星野(隆)	商学総合 曾我	経営 亀田
	6月25日 〈木〉	4	国際ビジネス 崔	会計 上平	経済 飯島	情報 星野(義)	商学総合 吉井	経営 八木
	6月30日 〈火〉	4	経営 田辺	国際ビジネス 青山	会計 田中	経済 山田	情報 柳下	商学総合 桐木
7	7月2日 〈木〉	4	経営 亀田	国際ビジネス 加藤(達)	会計 田中	経済 飯島	情報 大島	商学総合 望月
	7月7日 〈火〉	4	経営 田辺	国際ビジネス 青山	会計 河野	経済 菊池	情報 賀島	商学総合 桐木
	7月9日 〈木〉	4	経営 亀田	国際ビジネス 崔	会計 上平	経済 宮阪	情報 星野(義)	商学総合 吉井
	7月14日 〈火〉	4	論文・レポート指導		1～4組 5～8組 9～13組	加藤(達) 望月 山田	241教室 242教室 341教室	
	7月16日 〈木〉	4	論文・レポート指導		1～4組 5～8組 9～13組	加藤(達) 望月 山田	241教室 242教室 341教室	
	7月23日 〈木〉	4	補講・追試験		1～4組 5～8組 9～13組	加藤(達) 望月 山田	241教室 242教室 341教室	
	7月28日 〈火〉	4	補講・追試験		1～4組 5～8組 9～13組	加藤(達) 望月 山田	241教室 242教室 341教室	

☆5月21日〈木〉体育祭の予定 ◆「商学部入門講座」の再履修は別にあるので注意のこと。

[平成10年6月16日現在担当者変更後の予定です.]

教室 に ついて	1・2組	⇒613教室	[注] 論文・レポート指 導の教室は[表]の 中にあります。 間違いのないよう に注意すること。
	3・4組	⇒623教室	
	5・6組	⇒664教室	
	7・8組	⇒651教室	
	9・10組	⇒652教室	
	11・12・13組	⇒661教室	

資料⑨

授業科目名		単位数	担当教員	
商学部入門講座		4	(代) 山田 寿一 6 コー ス の 先 生 方	
(英文科目名) Introduction to the Commercial Science at Chuogakuin				
授 業 目 的	<ol style="list-style-type: none"> 1. 6コースの主任の先生を中心に商学部で4年間、専門科目を中心にとどのように学んだらよいかが講義される。 2. 特に本講座は、2年次からの6コース（商学総合、経営、国際ビジネス、会計、経済、情報）の選択に役立つよう各コースの学問体系、特徴、履習方法などが講義で示される。 3. さらに、2年生からの専門演習（ゼミナール）の選択にも役立つよう、多くの先生が参加をしてグループティーチングを実施する。 4. 本講座を受講すれば商学部の学問体系や何に興味をもって4年間学習すればよいかを理解される。 			
授 業 方 針	<ol style="list-style-type: none"> 1. 前期、週2回（火・木曜日4限）実施して出席とレポートで4単位の総合評価を行う。後期は開講しない。レポートは400字原稿用紙5枚（以上）を最終授業時に提出する。 2. 各6コースとも4回の授業が行われ、それ以外にガイダンスや論文・レポート指導が行われる。 3. 統一教科書は使用せず、各コースの担当教員が必要に応じて資料を授業中に配布する。 4. 前期終了科目の上に、必須科目であるので必ず履修しかつ欠席をしないように単位を習得すること。 			
年 間 授 業 計 画	前 期 授 業 の 概 要	<p>全体ガイダンスで本講座の特徴、スケジュール等を説明後、4/14から6つのグループに分れて各6コースの教員からそれぞれ4回にわたり各コースの説明や学問体系等の講義がなされる。7/9までに自分の興味をもった一つのテーマを選び、論文・レポート指導を経て7/9にレポートを提出する。出席不足やレポート不良者には夏休みに特別補講を行うことがある。</p>		後 期 授 業 の 概 要
		<p>後期は開講しない。後期には同一時間帯（火曜日と木曜日の4限）に週2回、4単位科目として次の科目が開講される予定であるのでこれを選択して履習することが望ましい。</p> <p>(1) 簿記原理I (2クラス) (2) 消費経済学</p>		

資料④

平成10年度

商学部入門講座採点・調査資料

(講座世話人/加藤達男・望月敏江・山田壽一)

I. 採点

(1) 基本方針 出席点50点+レポート点50点=100点

(2) 出席点 (50点)

① 1・2・3・4・5・6・7・8・9・10組

24回 (50点) 23回 (48点) 22回 (47点) 21回 (46点)

20回 (45点) 19・18回 (44点) 17・16回 (43点)

15・14回 (42点) 13・12回 (41点) 11回 (40点)

② 11・12・13組

23回 (50点) 22回 (47点) 21回 (46点) 20回 (45点)

19・18回 (44点) 17・16回 (43点) 15・14回 (42点)

13・12回 (41点) 11回 (40点)

(3) レポート点 (50点)

レポートは、A (50点), B (45点), C (40点), D (35点) に分けて採点した。

A (50点) —— テーマ, 内容, 書き方がしっかりしている。

B (45点) —— Aより劣るが, 内容がしっかりしている。

C (40点) —— 普通レベル

D (35点) —— テーマの選び方や書き方がまずい。

(注) レポートの内容の審査には, その膨大な量の採点と論述であるので, ある程度採点者の主観が介入したが, 統一した基準を保つよう努力した。

(4) 成績結果

(単位:名)

	優	良	可	不可	合計
1組	45	0	3	2	50
2組	45	1	2	1	49
3組	44	2	1	3	50

4組	48	1	1	0	50
5組	41	2	2	5	50
6組	39	4	4	3	50
7組	48	0	2	1	51
8組	39	1	3	7	50
9組	45	0	2	3	50
10組	42	2	1	4	49
11組	40	1	3	5	49
12組	38	3	5	4	50
13組	40	2	2	4	48

(注) 646名登録中604名(93.5%)が単位を取得している。

IV 「商学部入門講座」に対する学生の授業評価と その問題点

(1) 「商学部入門講座」の開講主旨とその機能

申すまでもなく、「商学部入門講座」の開講主旨は、次の三点である。

まず第一は、2年時コース制を採用するにあたり、そのコース選定のガイダンスとなる重要な講座であること。第二は、「商学部入門講座」を履修することで、狭い専門の特定コースのみ学習して卒業することを避け、幅広い専門知識の概要を1年次に学ばせる意味があること。つまり、全ての1年生は6コースの概要を当該担当教員に直接聞くことができるので、1年次に6コースの幅広い専門知識も得ることができる点である。1年生で幅広い教養的専門知識を身につけ、2年生から専門的教育を行う教育理念を象徴する講座がこの「商学部入門講座」なのである。

第三は、2年生からの演習教育を開始するにあたり、約6割の演習担当者が「商学部入門講座」で講義を行うので、1年生が演習を選択する際の教員との出会いの場としての機能である。本学では、この演習教育こそ、商学部教育の精神を具現化したもので、1年生に対し「商学部入門講座」の講義の

中で演習教育の重要性を強調できるのである。

また、「商学部入門講座」は、上記三点以外に数多くの教育実験の場を提供してくれた講座でもあった。例えば、「商学部入門講座」は本学では初めて週2回、半期に集中して講義するセメスター科目であり、将来のセメスター制実施への布石となる講座であった。特に、半期終了の授業科目は、平均約8割の学生が支持しており、平成11年セメスターへの移行の教授会（平成9年12月臨時教授会）承認の原動力となった。

さらに、「商学部入門講座」では、本学開学以来、初めて、全一学年規模で学生の無記名授業評価を完全実施し、その結果を教授会において報告をなし、かつ、学生授業評価制度が平成10年度から実施される基盤を提供した講座であった。つまり、「商学部入門講座」は本学授業評価の幕開けを告げる授業であったのである。

一方、学部行政の側面から「商学部入門講座」を見てみると、「商学部入門講座」は、商学部内での、初めての競業講座の性格を有し、「商学部入門講座」の運営如何で各コースの受講生が異なる競争原理を生み、教員に授業への取り組み方や授業効果を考えさせる良い機会を与えた。如何なる組織であろうと、競争意識のない組織はいずれ崩壊する。商学部内に初めて、競争意識を教員に芽生えさせたという点では、教員にも大きな効果をもたらした講座であった。

なお、「商学部入門講座」の名称に関しては、「商業科学概論」、「社会科学概論」、「社会科学総論」の名称が検討されたが、当時教務委員会に所属していた椎名が提案した「商学部入門講座」で決定した。この名称は、その科目の目的をズバリ言い当てていることや、その名称を付すことで従来のカリキュラムとは異なるイメージを教員や学生が持つことができ、かつ、話題性もあり、実行性と教育効果が期待されたからに他ならない。また、その名称は他大学で実施されている名称の模倣ではなく、本学、独自の名称であることも重要であった。現在、この名称も学生にすっかり定着して、一般に「商入門（しょうにゅうもん）」と親しみを込めて呼ばれるようになっている。

(2) 平成6年度——「商学部入門講座」初年度のアンケート調査とその反省・改善点

開講初年度にあたる平成6年度の「商学部入門講座」は前期と後期に分けて、合計10クラスを前期7クラス、後期6クラスの2分割にして運営された。出席点は70点、レポート点が30点で、出席重視の方針が貫かれた。つまり、出席さえすれば、「良」の成績を保証するものであった。この配点方法は、2年次6コース制の前に、「商学部入門講座」により、幅広い専門の基礎知識を教授したいとする「商学部入門講座」の目的を反映した評価基準であった。つまり、授業に出席して聴講していれば、講座の主旨は貫徹されるとするものであった。

① 平成6年度前期7クラス授業評価の概要

平成6年度前期7クラス授業評価を要約すると次の通りとなる。

この年度は、商学総合コースと情報コースが「商学部入門講座」には参加していない。商学総合コースは、「商学総論」の中でコース概要を説明し、情報コースは「情報処理論」の中でコース概要を説明した。また、国際ビジネスコースは、「商学部入門講座」には参加したが、通常授業でなく、集中授業の形態でこれを実施した。

この記念すべき、第1回の学生授業評価は、予想以上に好評であった。34%の学生がこの授業を積極的に評価し、評価しない学生8%を大幅に上回った。さらに驚くべきことは、半期完結の Semester 制の学生支持率78%の高さである。このアンケートの結果が、平成11年度商学部 Semester 導入の大きな契機になったのである。さらに、教員のチーム・ティーチングの斬新的な方法に関しては、49%の学生が良いと答え、悪いの7%を大きく上回る結果となった。

出席70点、レポート30点の採点方法も71%の学生の支持を得ることになり、全体に学生の授業評価は予想より高い結果となった。ただし、記述式ア

ンケートでは、授業改善への要望も少数ながら提示された。例えば、分かる授業（先生）と分からない授業（先生）があること（14名）、各コース4時間では少し短すぎる（8名）、反対に複数の教員より、一人の先生が担当した方がよいとの意見もあった（5名）。

② 平成6年度前期7クラス授業評価で注目すべき教育効果

平成6年度の新入生は、高校時代に入学時の願書で本学の3コース（商学、経済、情報）の希望調査をして入学してきた学生であった。その学生が、4月に「商学部入門講座」を実際受講して、どのくらいコース変更が発生したかという貴重な資料が提示された。つまり、「商学部入門講座」の教育効果の認識である。統計資料によると、高校時代、経済コースを希望した学生の52%が「商学部入門講座」を受講後、他のコース変更をした。また、商学コースを希望した学生の69%が、「商学部入門講座」を受講後、他のコース変更をしたことである。これこそ、「商学部入門講座」の教育効果の具体的な現れとして評価されるものといえよう（資料④参照のこと）。

③ 平成6年度後期6クラス授業評価の概要

平成6年度後期6クラス授業評価を要約すると次の通りとなる。

この開講初年度の後期第2回目の学生授業評価も、第1回以上に好評であった。47%の学生がこの授業を積極的に評価し、評価しない学生13%を大幅に上回った。さらに驚くべきことは、半期完結の Semester 制の学生支持率65%であった。このアンケートの結果が、前期同様、平成11年度商学部 Semester 導入の大きな契機になったのである。さらに、教員のチーム・ティーチングの斬新的な方法に関しては、51%の学生が良いと答え、悪いの6%を大きく上回る結果となった。

出席70点、レポート30点の採点方法も66%の学生が支持することになり、全体に学生の授業評価は予想より高い結果となった。ただし、授業改善への要望が記述式アンケートで提示された。例えば、講義の教え方（コースの説

明、講義内容が難しい、声が聞こえない、私語を注意しない)への不満が37名に達した。反面、コースの内容がつかめて良かったという学生が21名にも上った。その他、聞きたいコースのみ聞かせて欲しい(8名)、たくさんの先生に講義して欲しい(5名)、教員が講義に遅刻しないで欲しい(3名)等の意見があった。(資料④参照のこと。なお、一年間通しの授業評価も資料④に開示されている)。

④ 平成6年度——「商学部入門講座」初年度のアンケート調査とその反省・改善点

平成7年度に向けて次の改善点が話し合われた。

まず、平成6年度のように前期と後期に「商学部入門講座」を分けなくて平成7年度からは、全て前期に集中して実施することにした。これは、前期受講した学生は後期のその時間の履修科目がなくなり、後期の学生は前期のその時間の履修科目がなくなる不利益を無くするためである。また、平成7年度は商学総合コース、情報コースも全面参加し、国際ビジネスコースも集中ではなく、全てのコースが通常授業形態に組み込まれることとした。そして、後期に5科目の別の開講講座を用意し、1年間十分に学生が学習できる環境を整備することにした。

また、「商学部入門講座」は必修科目であるので、平成6年度にこれを落とした学生には、平成7年度の夏休み中に集中授業(セッション)を行うこととした。このセッションは、体育実技のような実技科目を除き、講義では本学では初めての試みとなる。

さらに、「商学部入門講座」に運営委員を各コース主任持ち回りにすることにした(ただし、この持ち回りは、平成11年に至って実現した)。

さらに、点数配分については、出席70点、レポート30点の基準を緩和して、出席60点、レポート40点とすることにした。出席ばかりに比重を置くと学生達に安易に単位取得ができる講座と思われることを避けるためである。

資料④

平成6年8月1日

商学部入門講座担当者・関係諸先生殿

(商学部長) 生田富夫

商学部入門講座

第2回担当者連絡会議開催のお知らせ

諸先生方のご尽力により、商学部入門講座の前期分が無事予定通り終了致しました。本年3月の教授会で承認されました教務委員会答申「商学部入門講座の具体的講義方法等その他に関する答申書」（平成5年12月9日）に基づき、受講生の成績評価を実施しなければなりません。また、授業に対する簡単なエヴァリエーションやアンケート調査も実施しておりますので、前期の反省点と後期授業に向けての改善点等を話し合いたく、下記の要領で会合を開催したいと存じます。夏休み中恐縮ですが、宜しくご参加くださいますようお願い致します。

—記—

(1) 日・時・場所 平成6年9月7日（水）午後1時より 図書館4階会議室

(2) 議 事

①前期成績評価の認定

本年4月8日、教授会終了後の第一回商学部入門講座担当者連絡会議では、古谷・椎名先生に出席点とレポートの採点をお願いする合意がなされました。お二人が採点した成績評価の原案を同封いたしますので、当日、最終承認をお願いいたします。

②エヴァリエーションとアンケート調査結果報告

本年4月8日、教授会終了後の第一回商学部入門講座担当者連絡会議でご承認頂きましたエヴァリエーションとアンケート調査の結果が同封した資料のようになりました。今後の運営等に役立てるためにご意見を拝聴したいと存じます。

③全体的な前期の反省と今後の改善点や後期担当者への引き継ぎ事項

以上

平成6年度前期(第一回)

商学部入門講座採点・調査資料

(講座世話人/古谷正勝・椎名市郎)

I. 採点

(1) 基本方針 出席点70点+レポート点30点=100点

(2) 出席点 18回—70点 17回—66点 16回—64点 15回—62点
14回—60点 13回—58点 12回—56点 11回—54点
10回—52点 9回—50点

(注) 慣例に従い、出席過半数を満たさない者には単位を認定しない。ただし、最終日のレポート提出時は出席を取らなかった(70点)ため、8回以上出席の学生のみ単位認定の資格を与えている。

(3) レポート点 レポートは、A(30点)、B(20点)、C(10点)の3段階に分けて採点した。

A(30点) — テーマ、内容、書き方がしっかりしている

B(20点) — 普通

C(10点) — テーマ、内容、書き方に問題や不足がある

(30点) (注) レポートの内容の審査には、その膨大な量の採点と論述であるのである程度の採点者の主観が介入したが、統一した基準を保つよう努力した。

(4) 結果

	A(30点)	B(20点)	C(10点)	合計
1組(経済)	12名	45名	2名	59
2組(経済)	11	47	5名	63
3組(経済)	4	46	8名	58
4組(商学)	5	26	12名	43
5組(商学)	6	43	2名	51
6組(商学)	14	49	1名	64
7組(商学)	10	39	4名	53
合計(登録428)	62名	295名	34名	391

(注) 428名登録者中、391名(91%)レポートを提出している。

II. コース希望アンケート調査結果報告

(1) 1組から3組までの経済コース180名の第一希望コースアンケート調査結果

経済	会計	国際ビジ	経営	商学総合	情報	合計
87名 (48%)	33名 (18%)	19名 (11%)	17名 (9%)	14名 (8%)	10名 (6%)	180名

(2) 4組から7組までの商学コース210名の第一希望コースアンケート調査結果

経済	会計	国際ビジ	経営	商学総合	情報	合計
13名 (6%)	51名 (24%)	38名 (18%)	25名 (12%)	65名 (31%)	18名 (9%)	210名

(3) 1組から7組までの前期全体、390名の第一希望コースアンケート調査結果

経済	会計	国際ビジ	経営	商学総合	情報	合計
100名 (26%)	84名 (22%)	57名 (15%)	42名 (10%)	79名 (20%)	28名 (7%)	390名

[コメント]

- ①経済コースを専攻した1年生の52%の学生が来年他のコースへの変更を希望。
- ②商学コースを専攻した1年生の69%の学生が来年他のコースへの変更を希望。
- ③前期全体では経済コースに次いで、会計コースに希望が多い。

III. 演習I履修希望アンケート調査結果報告

来年履修する	履修するか未定	履修しない	無回答	合計
124名 (32%)	243名 (63%)	7名 (2%)	15名 (3%)	389名

[コメント]

63%の学生が、2年次演習Iの履修を迷っている。このため、秋の早い時期に演習履修内容(シラバス等)を告示し、かつ、1年生へのガイダンスや内容説明会開催の必要性がある。

IV. 講義のエヴァリエーション (1)

(1) 受講してコース選択や演習選択に役立ったか？
①役立った—34% (114名) ②普通—58% (191名) ③役立たない—8%
(2) 半期授業(セメスター)の方法については？
①良い—78% (258名) ②普通—19% (63名) ③悪い—3% (10名)

IV. 講義のエヴァリエーション (2)

(3) 先生のチーム・ティ칭ングはどうだったか?		
①良い—49% (162名)	②普通—44% (145名)	③悪い—7% (22名)
(4) 採点方法については?		
①良い—71% (237名)	②普通—26% (87名)	③悪い—5% (17名)

具体的記述の意見

- ①コースの内容がつかめて良かった17名
 - ②半期授業で集中ができてとても良かった14名
 - ③わからない講義もあり教え方を改善してほしい14名
 - ④1時間目の授業がきつい11名
 - ⑤4コマではすこし短い8名
 - ⑥1クラスの人員を減らして欲しい6名
 - ⑦先生を統一して欲しい5名
 - ⑧講座の運営方法が良いと思う5名
 - ⑨講義になんと遅刻する教員がいる2名
 - ⑩聞きたいコースだけ聞かせてほしい2名
 - ⑪教材プリントを配布して欲しい1名
 - ⑫レポート作成は大変勉強になる1名
 - ⑬レポートの提出は不要1名
- 以上

資料④

(1995-1-25)

平成6年度前期 (第二回)

商学部入門講座採点・調査資料

(講座世話人/古谷正勝・椎名市郎)

I. 採点

- (1) 基本方針 出席点70点+レポート点30点=100点
- (2) 出席点 19回—70点 18回—66点 17回—64点 16回—62点
 (70点) 15回—60点 14回—58点 13回—56点 12回—54点
 11回—52点 10回—50点

(注) 慣例に従い、出席過半数を満たさない者には単位を認定しない。ただし、最終日のレポート提出時は出席を取らなかったため、9回以上出席の学生のみ単位認定の資格を与えている。

(3) レポート点 レポートは、A (30点)、B (20点)、C (10点) の3段階に(70点) 分けて採点した。

A (30点) ——テーマ、内容、書き方がしっかりしている

B (20点) ——普通

C (10点) ——テーマ、内容、書き方に問題や不足がある

(注) レポートの内容の審査には、その膨大な量の採点と論述である程度程度の採点者の主観が介入したが、古谷・椎名で調整し統一した基準を保つよう努力した。

(4) 結果 (後期のみ、前期公表済)

	A (30点)	B (20点)	C (10点)	合計
8組 (商学)	8名	32名	9名	49
9組 (商学)	8	31	9名	48
10組 (商学)	14	30	6名	50
11組 (情報)	11	31	7名	49
12組 (情報)	7	31	3名	41
13組 (情報)	8	32	3名	43
合計受講306名	56	187	37名	280

II. 講義のエヴァリエーション (後期のみ、前期公表済)

(1) 受講してコース選択や演習選択に役立ったか？
①役立った—47% (98名) ②普通—40% (85名) ③役立たない—13% (27名)
(2) 半期授業 (セメスター) の方法については？
①良い—65% (136名) ②普通—26% (26名) ③悪い—9% (20名)
(3) 先生のチーム・ティ칭ングはどうだったか？
①良い—51% (108名) ②普通—43% (90名) ③悪い—6% (12名)
(4) 採点方法については？
①良い—66% (139名) ②普通—30% (61名) ③悪い—4% (10名)

具体的記述の意見

①わからない講義があり教え方を改善してほしい ……………37名
(コースの説明がない、声が聞こえない、難しい通常の講義をする、私語を注意しない)

- ②コースの内容がつかめて良かった21名
- ③半期授業で集中ができてとても良かった11名
- ④2週連続4・5時間目はつらい11名
- ⑤聞きたいコースだけ聞かせてほしい8名
- ⑥沢山の先生に講義して欲しい5名
- ⑦講義に遅刻する教員がいる3名
- ⑧先生を統一して欲しい1名
- ⑨レポート作成に時間が欲しい1名
- ⑩論文の書き方をもう少し詳しく1名
- ⑪本講座は役立たない1名

III. 講義のエヴァリエーション (一年間)

(1) 受講してコース選択や演習選択に役立ったか？
①役立った—40% (212名) ②普通—51% (276名) ③役立たない—9% (53名)
(2) 半期授業 (セメスター) の方法については？
①良い—77% (394名) ②普通—17% (89名) ③悪い—6% (30名)
(3) 先生のチーム・ティ칭ングはどうだったか？
①良い—50% (270名) ②普通—44% (235名) ③悪い—6% (34名)
(4) 採点方法については？
①良い—66% (376名) ②普通—30% (148名) ③悪い—4% (27名)

具体的記述の意見

- ①わからない講義があり教え方を改善してほしい51名
(コースの説明がない, 声が聞こえない, 難しい通常の講義をする, 私語を注意しない)
- ②コースの内容がつかめて良かった・講座の運営が良い43名
- ③半期授業で集中ができてとても良かった25名
- ④2週連続4・5時間目や1時間目はつらい22名
- ⑤聞きたいコースだけ聞かせてほしい10名
- ⑥4コマでは少し少ない8名
- ⑦1クラスの人数を減らして欲しい6名
- ⑧先生を統一して欲しい6名
- ⑨沢山の先生に講義して欲しい5名
- ⑩講義に遅刻する教員がいる5名
- ⑪本講座は役立たない・レポート不要2名

⑫	レポート作成に時間が欲しい	1名
⑬	論文の書き方をもう少し詳しく	1名
⑭	レポートは大変勉強になる	1名
		以上

(3) 平成7年度——「商学部入門講座」2年目のアンケート調査とその反省・改善点

① 平成7年度13クラス授業評価の概要

平成7年度前期13クラス授業評価を要約すると次の通りとなる。

この2年目の学生授業評価も、平成6年度同様に全体的に好評であった。授業が役立った、ある程度役立ったの合計が82%に及び、この授業を積極的に評価する学生が、評価しない学生18%を大幅に上回った。さらに驚くべきことは、半期完結のセメスター制の学生支持率は65%であった。このアンケートの結果が、平成6年度同様、平成11年度商学部セメスター導入の大きな契機になったのである。さらに、教員のチーム・ティーチングの斬新的な方法に関しては、40%の学生が良いと応え、悪いの11%を大きく上回る結果となっている。

出席60点、レポート40点の採点方法も60%の学生が支持することになり、全体に学生の授業評価は予想より高い結果となった。ただし、授業改善への要望も記述式アンケートで少数ながら提示された。例えば、講義の教え方(コースの説明、講義内容が難しい、声が聞こえない、私語を注意しない)への不満が89名に達した。平成6年度よりその不満の数が増えたことは、講義をする教員側の本講座に対する意志統一の不徹底の問題点を示したといえる。反面、コースの内容がつかめて良かったという学生が27名にも上った。資料やテキストがあると良い(15名)、たくさんの先生に逢えてよかった(12名)、レポート指導を早めにして欲しい(3名)等、平成6年度には見られなかった意見もあった(資料⑬参照のこと)。なお、今回の授業評価の質問の中に、どの

コースのものが印象に残ったかを記述する項目を加えた。その結果、会計コース（特に、椎名の授業）を上げた学生が160名で、他のコースを大きく上回った。教育は、教員の資質や熱意におうところが大きいことが改めて示された。

② 平成7年度——「商学部入門講座」2年目のアンケート調査とその反省・改善点

平成7年度は、全て火曜日と木曜日の4時間目に授業を集中して実施することができた。これを実現するためには、時間割編成に特に苦勞したが、教務委員（古谷、椎名）と教務課員とで時間をかけて春休み中に時間割調整をした。また、前期完了した講座の受け皿として後期に5科目の履修科目を設定できたことも大きな前進であった。

また、平成7年度は商学総合コース、情報コースも全面参加し、国際ビジネスコースも集中ではなく、全てのコースが通常授業形態に組み込まれることができて、現在の「商学部入門講座」の原型が完成した年度であった。

また、「商学部入門講座」は必修科目であるので、平成6年度にこれを落とした学生を対象に、平成7年度の夏休み中に再履修「商学部入門講座」を集中授業（セッション）形式で実施した。

さて、平成7年度の反省点は、点数配分の修正である。

すなわち、出席重視の方針は変えないにしても従来の出席点60点、レポート点40点を改め、平成8年度の点数配分は、出席点50点、レポート点50点とすることとした。これは、学生達が出席のみしていれば単位を貰えるという安易な考えに警鐘をならす意味があった。また、出席のみを重視してしまうと何かの事情で出席（入院やけが、海外研修等）できない学生がレポートをいくら良いものを書いても点数に限界があることを考慮したためである。さらに、学生の中には出席は今一つであるが、素晴らしいレポートを書く学生もおり、このような学生の評価も考えての点数配分方法の修正であった。

また、初めての再履修「商学部入門講座」に関しても、うまく運営できた

との報告がなされた。その際、これからいかに再履修の学生の増加を防ぐかが大切との指摘もなされた。さらに、レポートの採点の統一基準を設ける必要性が叫ばれ、採点者の協議を十分して採点上、不利益がでないよう慎重に採点者間での意志統一を行うこととした。

資料③

平成7年度

商学部入門講座採点・調査資料

(講座世話人／古谷正勝・山田寿一・椎名市郎)

I. 採点

- (1) 基本方針 出席点60点+レポート点40点=100点
- (2) 出席点 (60点)
- ① 1・2・3・4組 24回 (70点) 23回 (58点) 22回 (57点) 21回 (56点) 20回 (55点) 19・18回 (54点) 17・16回 (53点) 15・14回 (52点) 13・12回 (51点) 11回 (50点)
- ② 5・6・7・8組 25回 (60点) 24回 (58点) 23回 (57点) 22回 (56点) 9・10組 21回 (55点) 20・19回 (54点) 18・17回 (53点) 16・15回 (52点) 14・13回 (51点) 12回 (50点)
- ③ 11・12・13組 23回 (60点) 22回 (58点) 21回 (57点) 20回 (56点) 19回 (55点) 18・17回 (54点) 16・15回 (53点) 14・13回 (52点) 12・11回 (51点) 10回 (50点)
- (3) レポート点 レポートは、A (40点)、B (30点)、C (20点)、D (10点) (40点) に分けて採点した。
- A (40点) ——テーマ、内容、書き方がしっかりしている
- B (30点) ——普通
- C (20点) ——テーマ、内容、書き方に問題や不足がある
- D (10点) ——テーマの選び方や書き方がまずい
- (注) レポートの内容の審査には、その膨大な量の採点と論述であるのである程度の採点者の主観が介入したが、統一した基準を保つよう努力した。

(4) 結果

	A (40点)	B (30点)	C (20点)	D (10点)	合計
1組	5名	20名	23名	3名	51
2組	8名	16名	24名	4名	52
3組	2名	9名	37名	2名	50
4組	3名	6名	35名	5名	49
5組	11名	21名	12名	4名	48
6組	4名	28名	7名	8名	47
7組	8名	32名	8名	1名	49
8組	6名	31名	13名	0名	50
9組	6名	30名	5名	2名	43
10組	8名	32名	10名	1名	51
11組	6名	36名	7名	0名	49
12組	7名	32名	9名	3名	51
13組	11名	18名	18名	2名	49

(注) 690名登録者中, 639名 (92.6%) リポートを提出している。

H7 「商学部入門講座」アンケート結果

1. 講義の内容について (番号を○印で囲んで下さい)

(1) 全体的に6コースの概要が把握できましたか？

①把握できた ②ある程度把握できた ③全く把握できなかった
 (24名—5%) (432名—77%) (102名—18%)

(2) 講義を受講してコースの選択や演習履修の参考となりますか？

①参考になった ②ある程度参考になった ③全く参考にならなかった
 (63名—11%) (399名—72%) (96名—17%)

(3) 「商学部入門講座」の教科書ないしは、それに準ずる資料は必要ですか？

①是非, 必要 ②あればあったほうが良い ③必要ない
 (80名—14%) (256名—46%) (222名—40%)

(4) 一番, 印象に残る講義内容, またはコース内容があれば教えて下さい。

・会計コースが良かった 160名 ・情報コースが良かった 24名
 ・商学総合コースが良かった 21名 ・国際ビジネスコースが良かった
 19名 ・経営コースが良かった 16名 ・経済コースが良かった 2名

2. 講座の運営方法について (番号を○印で囲んで下さい)

- (1) 本講座は、たくさんの先生がチームを組んで教えますが、この方法は？
 ①良い (221名—40%) ②普通 (274名—49%) ③悪い (63名—11%)
- (2) 本講座は週2回で1年分4単位を与える Semester 科目ですが、この方法は？
 ①良い (359名—65%) ②普通 (163名—29%) ③悪い (32名—6%)
- (3) 採点は出席60点、レポート40点ですが、このやり方は？
 ①良い (331名—60%) ②普通 (180名—32%) ③悪い (47名—8%)

3. 全体的に商学部入門講座を聞いて、ご意見があれば是非聞かせて下さい。

- ①コースの説明をしっかりと欲しい 67名 ②授業に工夫をして欲しい 22名
 ③大変役立った授業であった 27名 ④役立たなかった授業であった 12名
 ⑤多くの先生と逢えてよかった 12名 ⑥資料やテキストがあると良い 15名
 ⑦先生によって分かる授業とそうでない授業がある 37名
 ⑧出席管理は厳格に 5名 ⑨レポート指導は早めにして欲しい 3名
 ⑩授業評価法を再検討して欲しい 4名 ⑪Semester 制は良い 2名 ⑫もっと短期間で実施して欲しい 3名
 ⑬その他、授業中の持ち物検査はやめて欲しい 3名 クラスの受講生が多い 1名

(4) 平成8年度——「商学部入門講座」3年目のアンケート調査とその反省・改善点

① 平成8年度13クラス授業評価の概要

平成8年度前期13クラス授業評価を要約すると次の通りとなる。

この3年目の学生授業評価も、平成6,7年度同様に全体的に好評であった。「商学部入門講座」の授業が役立った、ある程度役立ったの合計が81%に及び、この授業を積極的に評価する学生が、評価しない学生19%を大幅に上回った。さらに驚くべきことは、半期完結のSemester 制の学生支持率は67%であった。このアンケートの結果が、平成6,7年度同様、平成11年度商学部Semester 導入の大きな契機になったのである。さらに、教員のチーム・ティーチングの斬新的な方法に関しては、41%の学生が良い答え、悪いの12%を大きく上回る結果となっている。

出席50点、レポート50点の採点方法も45%の学生が支持している。ただし、授業改善への要望も記述式アンケートで提示された。例えば、講義の教え方(コースの説明、講義内容が難しい、声が聞こえない、私語を注意しない)への不満が95名に達した。平成6、7年度よりその不満の数が増えたことは、講義をする教員の意志統一不備の問題点を改めて提示したといえる。多くの教員が参加するこの種の授業形態の難しさを改めて示した。先生を統一して欲しい(12名)の意見が寄せられたことがこれを裏付けている。反面、コースの内容がつかめて良かったという学生も37名と最高の人数に達した。授業中の私語を注意して欲しい(8名)等、学生達の授業への要望や意見が年々多面化し、厳しくなっていることがわかる。

今回の授業評価の質問の中にも、どのコースのものが印象に残ったかを記述する項目を設定した。その結果、会計コースを上げた学生が105名と、他のコースを大きく上回った。(資料④参照のこと)

② 平成8年度——「商学部入門講座」3年目のアンケート調査とその反省・改善点

平成8年度は現行の「商学部入門講座」の運用形態が完成をした年度として特徴づけられる。つまり、いろいろ模索をしたが、一応の講座の完成を見た年度であった。

しかし、完成すると、その不備も目立つようになってきた。特に、学生がこの講座に期待するものと、教壇で教員が展開する講義内容とのギャップが学生の授業評価を通して顕著化された。

制度面では6コースを全員に聞かせる全体統一型への問題点と、各教員と各コースとの本「商学部入門講座」に対する意識の統一性が問題点となる。

前者でいえば、各コースを総て聞かせることの意義もあるが、実際の学生の集中力や専門的なことを早く講義で聞きたいとする専門科目への知識欲を考慮すると、何らかの講座の中での科目選択制も考慮に入れる必要性を感じる。また、各コースにおいて主任を中心にした統一的な授業方針のコンセン

サス作りの重要性が認識された。これは、グループティーチングの問題点を提示していると思われる。

全体に「商学部入門講座」のリメイクの必要性を感じた年度であった。

資料④

平成8年度

商学部入門講座採点・調査資料

(講座世話人／古谷正勝・山田寿一・椎名市郎)

I. 採点

(1) 基本方針 出席点50点+レポート点50点=100点

(2) 出席点 (50点)

① 1・2・5・6組 24回 (50点) 23回 (48点) 22回 (47点) 21回
11・12・13組 (46点) 20回 (45点) 19・18回 (44点) 17・
 16回 (43点) 15・14回 (42点) 13・12回 (41
 点) 11回 (40点)

② 3・4・7・8組 25回 (50点) 24回 (48点) 23回 (47点) 22回
9・10組 (46点) 21回 (45点) 20・19回 (44点) 18・
 17回 (43点) 16・15回 (42点) 14・13回 (41
 点) 12回 (40点)

(3) レポート点 (50点) レポートは、A (50点)、B (45点)、C (40点)、D (35点) に分けて採点した。

A (50点) —— テーマ、内容、書き方がしっかりしている。

B (45点) —— Aより劣るが、内容等がしっかりしている。

C (40点) —— 普通レベル

D (35点) —— テーマの選び方や書き方がまずい。

(注) レポートの内容の審査には、その膨大な量の採点と論述であるのである程度の採点者の主観が介入したが、統一した基準を保つよう努力した。

(4) 成績結果

	優	良	可	不可	合計
1組	42名	4名	3名	3名	52
2組	47名	3名	0名	2名	52
3組	45名	3名	2名	2名	52
4組	43名	3名	4名	2名	52

5組	46名	2名	2名	2名	52
6組	46名	1名	2名	4名	53
7組	42名	2名	3名	4名	51
8組	44名	2名	2名	4名	52
9組	47名	1名	1名	2名	51
10組	48名	2名	0名	1名	51
11組	44名	0名	5名	2名	51
12組	46名	2名	3名	0名	51
13組	47名	1名	2名	1名	51

(注) 671名登録者中, 642名(95.7%)が単位取得をしている。

H8 「商学部入門講座」アンケート結果

1. 講義の内容について(番号を○印で囲んで下さい)

- (1) 全体的に6コースの概要が把握できましたか?
 ①把握できた ②ある程度把握できた ③全く把握できなかった
 (35名-6%) (414名-75%) (106名-19%)
- (2) 講義を受講してコースの選択や演習履修の参考となりますか?
 ①参考となった ②ある程度参考になった ③全く参考にならなかった
 (81名-14%) (389名-69%) (93名-17%)
- (3) 「商学部入門講座」の教科書ないしは、それに準ずる資料は必要ですか?
 ①是非, 必要 ②あればあったほうが良い ③必要ない
 (75名-14%) (262名-47%) (217名-39%)
- (4) 一番, 印象に残る講義内容, またはコース内容があれば教えて下さい。
 ・会計コースが良かった 105名 ・情報コースが良かった 23名
 ・商学総合コースが良かった 20名 ・国際ビジネスコースが良かった 26名
 ・経営コースが良かった 20名 ・経済コースが良かった 22名

2. 講座の運営方法について(番号を○印で囲んで下さい)

- (1) 本講座は, たくさんの先生がチームを組んで教えますが, この方法は?
 ①良い(227名-41%) ②普通(262名-47%) ③悪い(65名-12%)
- (2) 本講座は週2回で1年分4単位を与える Semester 科目ですが, この方法は?
 ①良い(379名-67%) ②普通(157名-28%) ③悪い(27名-5%)

(3) 採点は出席50点、レポート50点ですが、このやり方は？

①良い (258名-45%) ②普通 (246名-44%) ③悪い (65名-11%)

3. 全体的に商学部入門講座を聞いて、ご意見があれば是非聞かせて下さい。

①コースの説明をしっかりと欲しい-21名 ②授業に工夫をして欲しい-74名 ③大変役立った授業であった-37名 ④役立たなかった授業であった-9名 ⑤多くの先生と逢えてよかった-2名 ⑥資料やテキストがあると良い-7名 ⑦先生によって分かる授業とそうでない授業がある-8名 ⑧レポートなしが良い-2名 ⑨レポート指導は早めにして欲しい-3名 ⑩授業評価法を再検討して欲しい-7名 ⑪ Semester制は良い-2名 ⑫もっと短期間で実施して欲しい-5名 ⑬先生を統一して欲しい-12名 ⑭授業がうるさいので注意をして欲しい-8名 ⑮その他・選択科目が良い-8名 ・クラスの受講生が多い-1名・演習の説明をして欲しい-6名 ・マイクを使う、声を大きく-3名 ・商学部入門講座で英語をやらないほうが良い-5名 ・出席を厳しく-2名 ・商学部入門講座を授業口否定する先生がいた-1名 ・突然のテストはしないで欲しい-2名

(5) 平成9年度——「商学部入門講座」4年目のアンケート調査とその反省・改善点

① 平成9年度13クラス授業評価の概要

平成9年度前期13クラス授業評価を要約すると次の通りとなる。

この4年目の学生授業評価も、平成6, 7, 8年度同様に全体的に好評であった。「商学部入門講座」の授業が役立った、ある程度役立ったの合計が86%に及び、この授業を積極的に評価する学生が、評価しない学生14%を大幅に上回った。さらに、半期完結のSemester制の学生支持率は69%であった。このアンケートの結果が、平成6, 7, 8年度同様、平成11年度商学部Semester導入の大きな契機になったのである。さらに、教員のチーム・ティーチングの斬新的な方法に関しては、41%の学生が良いと答え、悪いの13%を大きく上回る結果となっている。

出席50点、レポート50点の採点方法も41%の学生が支持している。ただ

し、授業改善への要望も記述式アンケートで提示された。例えば、講義の教え方（コースの説明、講義内容が難しい、声が聞こえない、私語を注意しない）への不満が94名に達した。平成8年度と同じ数字であるが、年数を経ても講義をする教員の意志統一がなかなか図れないことを示している。改めて多くの教員が参加するこの種の授業形態の難しさを示した。先生を統一して欲しい（12名）がこのことを裏付けている。反面、コースの内容がつかめて良かったという学生が27名もいた。授業中の出席の取り方を代返ができないよう注意して欲しい（6名）等、学生達の授業への要望が多角的になってきていることがわかる。

今年度の授業評価の質問の中にも、どのコースのものが印象に残ったかを記述する項目を設定した。その結果、会計コースを上げた学生が90名と、他のコースを大きく上回った。（資料④参照のこと）

② 平成9年度——「商学部入門講座」4年目のアンケート調査とその反省・改善点

平成9年度は現行の「商学部入門講座」の運用形態が完成をした年度を受けて、問題点も浮き彫りとなった年度であった。

最大の問題点は学生の集中力の欠如であった。学生がこの講座に期待するものと、教壇で教員が展開する講義内容とのギャップが学生の授業評価を通して数年の間に顕著化されてきた。

このため、各コースを総て義務的に聞かせることの意義への反省や講義の内容を各コース主任を中心にして統一するコンセンサス作りの重要性が改めて認識された。平成8年度同様に、全体に商学部入門講座のリメイクの必要性を感じた年度であったが、平成10年度に開始される Semester 導入に際してのカリキュラム改革審議時に再検討することにして、一応、今年度は問題を先送りにした。

資料④

平成9年度

商学部入門講座採点・調査資料

(講座世話人／古谷正勝・山田寿一・椎名市郎)

I. 採点

(1) 基本方針 出席点50点+レポート点50点=100点

(2) 出席点 (50点)

① 1・2・5・6組 24回 (50点), 23回 (48点), 22回 (47点), 21回 (46
8・9・10・11組 点) 20回 (45点), 19・18回 (44点), 17・16回
12・13組 (43点) 15・14回 (42点), 13・12回 (41点), 11回
 (40点)

② 3・4組 23回 (50点), 22回 (47点), 21回 (46点), 20回 (45
 点) 19・18回 (44点), 17・16回 (43点) 15・14回
 (42点), 13・12回 (41点), 11回 (40点)

(3) レポート点 レポートは, A (50点), B (45点), C (40点), (50点), D (35点) に分けて採点した.

A (50点) —— テーマ, 内容, 書き方がしっかりしている.

B (45点) —— Aより劣るが, 内容等がしっかりしている.

C (40点) —— 普通レベル

D (35点) —— テーマの選び方や書き方がまずい.

(注) レポートの内容の審査には, その膨大な量の採点と論述であるのである程度の採点者の主観が介入したが, 統一した基準を保つよう努力した.

H9 「商学部入門講座」アンケート結果

1. 講義の内容について (番号を○印で囲んで下さい)

(1) 全体的に6コースの概要が把握できましたか?

①把握できた ②ある程度把握できた ③全く把握できなかった
 (28名-6%) (378名-80%) (72名-14%)

(2) 講義を受講してコースの選択や演習履修の参考となりますか?

①参考となった ②ある程度参考になった ③全く参考にならなかった

- (48名－12%) (274名－69%) (75名－19%)
- (3) 「商学部入門講座」の教科書ないしは、それに準ずる資料は必要ですか？
- ①是非、必要 ②あればあったほうが良い ③必要ない
- (57名－11%) (233名－47%) (208名－42%)
- (4) 一番、印象に残る講義内容、またはコース内容があれば教えてください。
- ・会計コース 90名
 - ・情報コース 22名
 - ・商学総合コース 10名
 - ・国際ビジネスコース 19名
 - ・経営コース 14名
 - ・経済コースが良かった 9名

2. 講座の運営方法について (番号を○印で囲んで下さい)

- (1) 本講座は、たくさんの先生がチームを組んで教えますが、この方法は？
- ①良い (195名－41%) ②普通 (222名－46%) ③悪い (61名－13%)
- (2) 本講座は週2回で1年分4単位を与える Semester 科目ですが、この方法は？
- ①良い (337名－69%) ②普通 (142名－29%) ③悪い (9名－2%)
- (3) 採点は出席50点、レポート50点ですが、このやり方は？
- ①良い (195名－41%) ②普通 (233名－49%) ③悪い (49名－10%)

3. 全体的に商学部入門講座を聞いて、ご意見があれば是非聞かせて下さい。

- ①コースの説明をしっかりと欲しい 45名 ②授業に工夫をして欲しい 49名 ③大変役立つ授業であった 27名 ④役立つなかった授業であった 7名 ⑤多くの先生と逢えてよかった 6名 ⑥資料やテキストがあると良い 3名 ⑦先生によって分かる授業とそうでない授業がある 2名 ⑧原稿用紙以外も認めて 2名 ⑨レポート指導は早めにして欲しい 7名 ⑩授業評価法を再検討して欲しい 9名 ⑪クラス編成を少数にして欲しい 4名 ⑫出席の取り方を工夫して欲しい (代返等) 6名 ⑬先生を統一して欲しい 12名 ⑭授業がうるさいので注意をして欲しい 3名 ⑮その他一・時間割の回数や編成に工夫を 3名
- ・2単位が良い 1名
- ・演習の説明をして欲しい 4名
- ・TVモニターの故障があった 1名
- ・商入門講座で歌をうたう先生や中国の話をする先生がいて印象に残る 3名
- ・質問コーナーを設けて欲しい 2名
- ・最新教育機材を利用して欲しい 2名
- ・コースを既に決めている人には不向きな授業もある 13名
- ・早く Semester 制の完全実施を 1名

(6) 平成10年度——「商学部入門講座」5年目のアンケート調査とその反省・改善点

① 平成10年度13クラス授業評価の概要

平成10年度前期13クラス授業評価を要約すると次の通りとなる。

この5年目の学生授業評価も、平成6, 7, 8, 9年度同様に全体的に好評であった。「商学部入門講座」の授業が役立った、ある程度役立ったの合計が76%に及び、この授業を積極的に評価する学生が、評価しない学生24%を大幅に上回った。ただし、役に立たないと評価する学生が昨年より10%も増えていることには注意が必要である。また、半期完結のセメスター制の学生支持率は60%であった。このアンケートの結果が、平成6, 7, 8, 9年度同様、平成11年度商学部セメスター導入の大きな契機になったことはいうまでもない。さらに、教員のチーム・ティーチングの斬新的な方法に関しては42%の学生が良いと答え、悪いの15%を大きく上回る結果となっている。

出席50点、レポート50点の採点方法も36%の学生が積極的に支持している。ただし、授業改善への要望も記述式アンケートで提示された。例えば、講義の教え方(コースの説明、講義内容が難しい、声が聞こえない、学生の私語を注意しない)への不満が48名に達した。平成8年度と同じ数字であるが、数年間を経ても講義をする教員の意志統一がなかなか図れないことを示している。改めて多くの教員が参加するこの種の授業形態の難しさを示した。先生を統一して欲しい(7名)がそのことを裏付けている。反面、コースの内容がつかめて良かったという学生も13名いた。授業中の出席の取り方を代返ができないよう注意して欲しい(2名)等、学生達の授業への要望が前年度同様、多角的になってきていることがわかる。

今回の授業評価の質問の中にも、どのコースのものが印象に残ったかを記述する項目を設定した。その結果、第一が情報コースの40名で従来の第一位の会計コースは15名と激減した。これは、担当教員の変更によるものと思われる。(資料④参照のこと)

② 平成10年度——「商学部入門講座」5年目のアンケート調査とその反省・改善点

平成10年度は9年度同様、現行の「商学部入門講座」の問題点が浮き彫りとなった年度であった。

最大の問題点は学生の集中力の欠如であった。学生がこの講座に期待するものと、教壇で教員が展開する講義内容とのギャップが学生の授業評価を通してこの数年の間に顕著化されてきた。

このため、各コースを総て義務的に聞かせることの意義への反省や講義の内容を各コース主任を中心にして統一するコンセンサス作りの重要性が改めて認識された。平成10年度に開始される Semester 導入に際してのカリキュラム改革の一環として後述するように平成11年度から再構築されることになった。

資料④

平成10年度

商学部入門講座採点・調査資料

(講座世話人／加藤達男・望月敏江・山田壽一)

I. 採点

(1) 基本方針 出席点50点+レポート点50点=100点

(2) 出席点 (50点)

① 1・2・3・4・5・6・7・8・9・10組

24回 (50点), 23回 (48点), 22回 (47点), 21回 (46点)

20回 (45点), 19・18回 (44点), 17・16回 (43点)

15・14回 (42点), 13・12回 (41点), 11回 (40点)

② 11・12・13組

23回 (50点), 22回 (47点), 21回 (46点), 20回 (45点)

19・18回 (44点), 17・16回 (43点), 15・14回 (42点)

13・12回 (41点), 11回 (40点)

(3) レポート点 (50点)

レポートは、A (50点), B (45点), C (40点), D (35点) に分けて採点した。

- A (50点) ——テーマ, 内容, 書き方がしっかりしている。
 B (45点) ——Aより劣るが, 内容等がしっかりしている。
 C (40点) ——普通レベル
 D (35点) ——テーマの選び方や書き方がまずい。

(注) リポートの内容の審査には, その膨大な量の採点と論述であるのである程度の採点者の主観が介入したが, 統一した基準を保つよう努力した。

(4) 成績結果

	優	良	可	不可	合計
1組	45	0	3	2	50
2組	45	1	2	1	49
3組	44	2	1	3	50
4組	48	1	1	0	50
5組	41	2	2	5	50
6組	39	4	4	3	50
7組	48	0	2	1	51
8組	39	1	3	7	50
9組	45	0	2	3	50
10組	42	2	1	4	49
11組	40	1	3	5	49
12組	38	3	5	4	50
13組	40	2	2	4	48

(注) 646名登録中604名(93.5%)が単位を取得している。

H10 「商学部入門講座」アンケート結果

1. 講義の内容について(番号を○印で囲んで下さい)

(1) 全体的に6コースの概要が把握できましたか?

- ①把握できた ②ある程度把握できた ③全く把握できなかった
 (38名-7%) (348名-69%) (119名-24%)

(2) 講義を受講してコースの選択や演習履修の参考となりますか?

- ①参考となった ②ある程度参考になった ③全く参考にならなかった
 (56名-11%) (253名-50%) (195名-39%)

(3) 「商学部入門講座」の教科書ないしは, それに準ずる資料は必要ですか?

- ①是非, 必要 ②あればあったほうが良い ③必要ない

(43名-9%) (223名-44%) (236名-47%)

(4) 一番、印象に残る講義内容、またはコース内容があれば教えてください。

- ・情報コース 40名 ・経営コース 27名 ・商学総合コース 24名
- ・会計コース 15名 ・国際ビジネスコース 11名 ・経済コース 5名
- ・全コース 2名 ・レポート作成 1名 ・ビデオを使用した講義 4名
- ・情報コースの説明はよくない 2名 ・先生が途中で講義をやめ出て行ったこと 7名
- ・中国についての話 6名 ・すべてつまらない 3名 ・資格の取得についての講義がよかった 2名
- ・コースの話をしないうで他のことを話していた先生のことが印象に残った 2名
- ・計算させられた講義 1名
- ・生徒を「オイ」呼ばわりした先生、あれはよくない 2名
- ・犬小屋の事をワンルームマンションと言った先生の話 2名

2. 講座の運営方法について (番号を○印で囲んで下さい)

(1) 本講座は、たくさんの先生がチームを組んで教えますが、この方法は？

- ①良い (213名-42%) ②普通 (218名-43%) ③悪い (73名-15%)

(2) 本講座は週2回で1年分4単位を与える Semester 科目ですが、この方法は？

- ①良い (299名-60%) ②普通 (172名-34%) ③悪い (32名-6%)

(3) 採点は出席50点、レポート点50点ですが、このやり方は？

- ①良い (183名-36%) ②普通 (240名-48%) ③悪い (81名-16%)

3. 全体的に商学部入門講座を聞いて、ご意見があれば是非聞かせてください。

- ①コースの説明をしっかりしてほしい 7名 ②授業に工夫をして欲しい 4名
- ③大変役立った指導であった 13名 ④役立たなかった授業であった 25名
- ⑤資料やテキストがあると良い 1名 ⑥先生によって分かる授業とそうでない授業があった 10名
- ⑦レポート指導は早めにしてほしい 1名 ⑧授業評価法を再検討 7名 ⑨出席の取り方を工夫して 2名
- ⑩授業がうるさいので注意して欲しい 8名

その他

- ・教科の内容をもう少し教えてほしい 7名
- ・演習の説明をして欲しい 1名
- ・コースを既に決めている人には不向きな授業もある 18名
- ・Semester 制はよい 1名
- ・自分の興味のないコースの説明は不必要 2名

・最後まで授業をしてほしかった 1名 ・4月に各コース1回ずつのコース概要説明が欲しい 1名 ・小人数でやった方がよい 3名 ・先生の話が取っている講座とダブるときがあり退屈だった 1名 ・レポートが大変 3名 ・法学入門講座も受けたかった 1名 ・出席点に重点を置くのはよくない 8名 ・コース別での説明のほうが良い 5名 ・レポートはいらぬ 1名 ・先生が毎回代わるのはよくない (むかつく先生もいるので) 7名 ・他のコースの先生でなく担当コースの先生が授業をするべきだ 2名 ・長かった 4名 ・時間割を決めてから商入門をやるので1年次にコースのものがとりにくい 1名 ・先生の言うことが矛盾していることがある 1名 ・先輩の話も聞いてみたい 1名 ・間が空き過ぎる2回まとめてやって欲しい 1名 ・来年もやるべきだ 2名 ・コース選択にもっと時間的余裕が欲しい 1名 ・来年は必要ない 2名

V 「商学部入門講座」に対する学生の授業評価の総括

IV章で外観したように、「商学部入門講座」の受講学生の授業評価は、その都度、拡大教務委員会や世話人の運営委員の中で話し合われ、授業の改善が試みられてきた。その意味で、本講座は、学生との対話の中でその形態が形成されてきた講座といえる。

この学生との対話の中で変更が加えられた代表的なものは、採点基準であった。当初、出席重視で出席が70点、レポートが30点であったが、次第に出席が60点、レポートが40点になり、現在は、出席が50点、レポートは50点となっている。学生が自主研究するレポートの基準を高め、出席は学生の自主性を重んじる趣旨の変更であった。

一方、学生が毎回問題提起してなかなか改善できないものに講義内容の統一性の欠如がある。コースの内容を説明しなかったり、通常の講義をしてしまっている教員がいたり、「商学部入門講座」の開講の趣旨を理解している教員と、理解していない教員とのバラツキ問題が同じコース内で発生している問題である。多くの教員が参加するチームティーチングの難しさを露呈した。

また、少数ではあるが、既にコース選択を終えている学生に対しては、退屈な授業になっているとの学生の批判があった。これは、「商学部入門講座」の開講趣旨の学生への不徹底さを露呈したものであるが、この点も平成11年度からは、後半の「商学部入門講座B」で各コースの講義のみを選択できるようにしてこの問題を解決した。1年生の時には、幅広く他のコースの概要を聞かせることも「商学部入門講座」の大切な目的であった。

しかし、以上のような問題点はあっても、全体的に「商学部入門講座」に対する学生の評価は高く、時代に適応し、有益な講義を提供したものと言える。以上考察した問題点を踏まえ、平成11年度からは、春semester「商学部入門講座A」では現状と同じコース概要説明を行い、秋semesterで各コースに分かれたコース別指導の「商学部入門講座B」がスタートする。詳しくは、次章で考察する。

VI これからの「商学部入門講座」に対する提言

——結びに代えて——

平成10年度の教務委員会は、平成11年度から実施予定のsemester制における「商学部入門講座」の取り扱いと授業運営方法等について、「平成11年度実施予定の商学部カリキュラム改革関係基本事項の確認(案)」(平成10年1月12日付、椎名学部長試案)、「平成10年1月12日付学部長諮問に対する答申」(平成10年2月6日付、商学部教務委員会および商学部semester制検討特別委員会合同答申)を踏まえて検討を行い「商学部入門講座改革案」を作成した。そして平成10年7月1日定例教授会の審議事項「[3] semester実施に向けての各分科会カリキュラム改革科目配当表暫定承認の件」の中において、「商学部入門講座改革案」の審議がなされた。

以下その経過を取りまとめるとともに、「商学部入門講座改革案」を提示することにより、これからの「商学部入門講座」に対する提言としたい。

(1) 「平成11年度実施予定の商学部カリキュラム改革関係基本事項の確認」(平成10年1月12日付, 椎名学部長基本方針——資料④)

椎名学部長試案において, 商学部入門講座は「(5) 第3セメスタ(2年次)コース選択制と『商学部入門講座』の堅持」の中で次のように取り扱われている。

「『商学部入門講座』を第一セメスター(1年次)に開講し, 各コースを代表する教員が, 各コースの特徴や学問体系, 演習説明等の講義を実施する。ただし, 第一セメスターで『商学部入門講座』を, 第二セメスターで各6コースの概論を講義する講座の新設を検討する。例, 商学(総合)入門, 経営入門, 国際ビジネス入門, 会計入門, 経済入門, 情報科学入門(全て2単位)である。このことにより専門教育を1年次第2セメスターから実施可能となる。これら各6コースの入門講座を『商学入門講座II』と位置づけるか, 別名称とするかは検討課題である。ただし, 専門教育のみが先行しないよう, リベラルアーツとしての全人格教育との関連性に配慮する。」

また商学部入門講座は「(6) 新カリキュラムの具体的内容, ⑨」の中で, 「商学系列の共通必修科目は, 『商学部入門講座』と『情報処理論』である。」とされ, 商学系列の共通必修科目として位置づけられている。

資料④

平成11年度実施予定の商学部カリキュラム改革関係基本事項の確認(案)

(1) 平成11年実施予定のカリキュラム改革策定の基本方針

- ①平成5年10月6日教授会で決定された現行カリキュラムの基本理念を継承する。
- ②科目配当や統廃合, 科目名称の再検討等現行カリキュラムの不備は是正する。
- ③平成9年12月18日臨時教授会で承認された八期セメスター制を導入する。このため原則として4単位科目は2単位に2単位は1単位に分割する。必

修・重要基本科目は Semester の利点を考慮し、各 Semester に適切に配置する工夫をする。

- ④新設科目を容認する。その場合、現開講科目の統廃合を原則とする。
- ⑤ Semester の開始年次は平成 11 年新入学生からとする。ただし、時間割編成が複雑化するので事務担当と慎重に討議する。なお 6 コースの履修モデル表は統一する。
- ⑥兼任講師、教務事務、在籍・新入学生等への事前対応を充分はかる。
- ⑦「答申書」2 頁の検討課題の審議に早急に入る（例—法学部の乗り入れ科目、教職科目等）。授業時間 90 分の検討や現行火・木曜日 4 時間目の有効活用法も検討する。

(2) カリキュラム改革の理念

商学部カリキュラムの基本理念は、①魅力ある学部—入りやすい学部から入りたい学部へ、②教育目標の明確化—各 6 コースで育成の人物像を定める、③国際化、情報化、個性化への時代対応、の三点とする。

(3) カリキュラム改革の教育の特色

カリキュラムの教育特色としては、① 6 コース制採用、② 専門・教養科目の名称の廃止、商学系列科目、人文・自然系列科目の存続、③ 必修科目の削減化（特に、1・2 年生次）と、1 年生から学生が自由に選択する科目群の存続、④ 従来のプロゼミナールと演習 I・II・III の連携やゼミナール教育の充実、⑤ 単位互換性の一層の促進、⑥ 科目等履修生制度の充実、⑦ 全体にカリキュラム選択余地の拡大化や弾力的運用を目指す。⑧ また、夏休み、春休みの授業開講の促進と弾力的授業時間の運営も図る。

(4) カリキュラム改革の教育目標

新カリキュラムの 6 コース制の下でも、教育目標及び育成する人物像をイメージして具体的な教育を目指すよう心掛ける。例えば、①〔商学総合コース〕—商学に関する幅広い教養を持ち、あらゆる分野においてその基礎知識を応用できるアイデアや才能にあふれる人材の育成を目指す、②〔経営コース〕—経営についての理論を把握し、幅広い見識と、高い人格を備えた将来の経営者たるべき優秀な人材の育成を目指す、③〔国際ビジネス

コース]—国際的視野に立ち、物事を把握できる人材の要請を目指す、④ [会計コース]—会計についての基礎知識から応用までを修得し企業内経理担当者のみならず、職業会計人の育成を目指す、⑤ [経済コース]—経済学系列の科目を系統的に勉強し、経済社会に対する根本的かつ総合的見方を習得して社会生活に有能な人材の育成を目指す、⑥ [情報コース]—情報科学の理論と技法を修得し、プログラムが組めて戦略思考のできる人材の育成を目指す、等である。

各コースはこれら目標にカリキュラムを近づける努力をする。

(5) 第3セメスタ (2年次) コース選択制と「商学部入門講座」の堅持

6コースと同様、2年次コース選択制を採用する。これは、高校で自分の能力を適切に判断できる学生もいるが大半は狭い視野でのコースの選択判断になる可能性があるため、実際の大学生活の中で、半年間勉強をしながら適切なコース選択をさせる方法を堅持する。「商学部入門講座」を第一セメスター (1年次) に開講し、各コースを代表する教員が、各コースの特徴や学問体系、演習説明等の講義を実施する。

ただし、第一セメスターで「商学部入門講座」を、第二セメスターで各6コースの概論を講義する講座の新設を検討する。例、商学 (総合) 入門、経営入門、国際ビジネス入門、会計入門、経済入門、情報科学入門 (全て2単位) ある。このことにより専門教育を1年次第二セメスターから実施可能となる。これら各6コースの入門講座を「商学部入門講座II」として位置づけるか、別名称とするかは検討課題とする。ただし、専門教育のみが先行しないよう、リベラルアーツとしての全人格教育との関連性に配慮する。

(6) 新カリキュラムの具体的内容

- ①新カリキュラムの具体的な教育内容で総卒の卒業必要単位数は126単位とする。各科目の単位は4単位は2単位とし、2単位は1単位とする。学期は4年間で第一セメスターから第八セメスターまで分ける。科目の学年配当や科目の統廃合、科目名称の変更、新設科目の設置の検討も各コース、分科会からの最終答申後、検討する。
- ②商学、人文・自然、体育、語学系列ができるだけ各セメスターで履修できるように配慮する。特に、必修科目や重要基本科目は、セメスターの長所を生かす工夫をする。

- ③卒業所要単位126単位の内訳は、以下④～⑧のようにする。
- ④まず、1年次（第一，第二セメスター）共通必修科目20単位，2年次（第三，第四セメスター）共通必修科目2単位とする。
- ⑤人文・自然系列は20単位，商学系列科目は84単位（内，16単位は各コース別必修）である。この内，1年次共通必修科目には，商学部入門講座2単位，各コース別入門講座，又は「商学部入門講座II」（私案）2単位，情報処理論I・II各2単位，国語I・II各2単位，プロゼミナール計2単位，英語I計2単位，英語II計2単位，体育実技I計2単位の合計20単位である。2年次共通必修科目には，英語IIIのみで，これに各6コース別必修科目計16単位の内，学年指定科目が加えられる。このように共通必修科目を抑え選択科目を増やし幅広い学習機会の提供を堅持する。
- ⑥人文・自然系列からは，26単位（国語I・II各2単位，プロゼミナール計2単位含む）の履修が義務付けられている。そして，26単位を越える余剰単位の内，最大12単位までが商学系列科目の選択科目に単位振替が認められる。この余剰単位振り替え制度も学生の個性を伸ばす意味で重要な理念の一つであるので堅持する。
- ⑦外国語系列科目の内，第一外国語の英語I・II（計各2単位，1年次配当），英語III（計各2単位，2年次配当）は共通必修で，英語IV・Vは選択科目となる。英語IV・Vを共に履修した場合に限り，商学系列選択科目に4単位の振替が可能となる。第二外国語は，現行の選択制を堅持する。英語，第二外国語を勉強したい学生の環境整備を目指し，外国語の先生に演習を担当頂き，語学の好きな学生が演習教育まで含めて4年間教育を受けられる制度を一層拡充する。なお，セメスターに伴い2単位科目を1単位に分割することを原則とするが，もし別の方法があるならこれを検討する。
- ⑧体育科目は，体育実技I（計2単位）が1年次の全学必修で体育実技II・III（計2単位）が2年次以降の選択科目となる。また，従来の体育理論，保健理論を廃止し，新たに「スポーツ健康科学概論」（計4単位）が人文・自然系列科目の選択科目に新設されたのでこれをセメスターに分け堅持する。体育実技1単位分割を原則とするが，もし別の方法があるならこれを検討する。
- ⑨商学系列科目の最大の特徴は，2年次6コース制の採用である。各コースで教育する理想像を掲げ，専門商学系列ばかりでなく，人文・自然系列や語学系列等も含む履修モデル表を学生要覧に公開する。商学系列の共通必修科目は，「商学部入門講座」と「情報処理論」である。「商学部入門講座」で自分の個性や特性を発見し，「情報処理論」で情報化に対応し

ようとする理念がこの科目に象徴されている。この商学系列の共通必修科目を土台に、各6コース基本重要科目であるコース選択必修科目が配列されている。

- ⑩これらのコース選択必修科目は2年次、3年次、4年次と系統を踏んで履修されているか否か科目の学年配当を再検討する。コース内外でのコース選択必修科目の余剰単位の商学系列選択科目への単位振替制度はこれを堅持する。
- ⑪6コース基本重要科目であるコース選択必修科目を2年次から4年次までそれぞれ計16単位設定され、コースの特色と専門教育の内容充実を図ってきたが、16単位は堅持するもののその科目が適切か否か、また配当年次が適正か否かは再検討する。
- ⑫なお、3年生での履修終了を防ぐ意味で4年生（第七・八 Semester）にもコース必修を配置する措置は当面はこれを堅持する。また、4年次の第七 Semester は就職活動との兼ね合いで特に科目配当に注意する必要があると思われる。

(7) 通年科目の併設について

- ①法学部との共通・互換科目は各担当教員の協力を得て、半期の成績を出し、商学部でこれを2単位に独自に分けることが望ましい。留学生科目も同様の措置を検討する。
- ②総合講座、海外研修特別講座、体育実技は各単位に分割し Semester を適応する。
- ③プロゼミナール、演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲは原則通年単位評価とするが、Semester の分割の可能性や別の方法があれば検討する。例ープロゼミを一 Semester で終了する案
- ④教職課程も通年単位評価を原則とするが、①の方法が可能か否かは検討をする。

(8) 留学生カリキュラム

- ①留学生のための日本語、日本事情のカリキュラムは、過去に何度か改正を加えてきたが、出身国の多様化や留学生の減少に鑑み、学生のニーズにあったアップ・ツー・デートなものへの改革を遂行する。
- ②日本語事情Ⅰ・Ⅱの必修科目を統廃合して日本語事情（2年次配当）とし、

- 必修単位を20単位から16単位に減らす。また、日本語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳの必修科目を履修した留学生は、人文・自然系列の国語の必修は外すこととする。日本語上級科目を新設し(3年次選択)、留学生履修単位20単位の全てを人文・自然系列科目に単位振替措置する制度はこれを堅持する。
- ③留学生科目の単位の分割は、両学部共通科目のためこれを慎重に検討する。ただしできれば、担当教員の協力を得て、商学部は半期ごとに成績を出すセメスターを遂行する方向で関係者と協議する。無理な場合は例外措置として通年単位・評価とする。

(9) その他の問題

- ①単純な科目の単位の分割ではなく、講義内容の再構成を必ず含んだものとする。
- ②各コース・分科会にセメスターを前提にした最終第4次諮問の実施時期・内容検討
- ③②答申前後の義務・セメスター委員会の全体調整機能の作業確認
- ④統一様式によるコースモデル表の作成
- ⑤平成11年入学生から適用する場合の在籍学生との問題点の検討
- ⑥15週確保の学年歴の策定と時間割編成、特に休講措置による補講・試験期間問題
- ⑦法学部教員、非常勤講師(特に重要)、教務課課員、学生への情宣と協力依頼
- ⑧90分一律授業時間の再検討と現行火曜日、木曜日4時間目の有効利用法の検討
- ⑨夏休みのセッション(集中授業方式)の活用の検討
- ⑩教務事務・履修コンピューターソフト等の事前対応
- ⑪後期各セメスターでの履修変更は2科目でよいのか否か。また、その具体的方法。
- ⑫その他(成績評価の可を50から60点にアップさせる件や履修単位制限の検討)

(平成10年1月14・20・27日教務・セメスター合同委員会討議資料一提案者：椎名市郎)

(2) 「平成10年1月12日付椎名学部長諮問に対する答申」

(平成10年2月6日付, 商学部教務委員会および商学部セメスター制
検討特別委員会合同答申——資料④)

合同答申の中における商学部入門講座関係の事項としては、「3. 各コース・分科会への諮問内容の検討」の中の⑤において、「『商学部入門講座』および『プロゼミナール』は、上記の原則に従いそれぞれ前期・後期のA・Bに分割する。」がある。このことは商学部入門講座が従来前期のみで週2回行うセメスター制を採用していたものを、通年でおこなうことを意味しており、その点では大きな改革といえる。

資料④

商学部長 椎 名 市 郎 殿

平成10年2月6日

商学部教務委員会

主査 望 月 敏 江

委員 宮 阪 雅 幸

委員 藤 田 晃 之

商学部セメスター制検討特別委員会

主査 久 保 純 子

委員 村 本 伸 幸

委員・教務課長

大 山 隆

平成10年1月12日付学部長諮問に対する答申

平成11年度セメスター制実施・カリキュラム改革に関する標記諮問に対し、両委員会の合同審議の結果、以下の通り答申いたします。

目次

1. 「平成11年度実施予定の商学部カリキュラム改革関係基本事項の確認(案)」

- (学部長試案), とくに (1) 基本方針案の検討
2. 6コースの履修モデル表の統一様式の検討
 3. 各コース・分科会への諮問内容の検討
 4. 将来的な欧米型セメスター制(半期4単位)移行の検討

答申内容

1. 「平成11年度実施予定の商学部カリキュラム改革関係基本事項の確認(案)」
(学部長試案), とくに (1) 基本方針案の検討
平成10年1月21日商学部教授会配布「平成11年度実施予定の商学部カリキュラム改革関係基本事項の確認(案)」(椎名商学部長作成)第1項の「(1)平成11年実施予定のカリキュラム改革策定の基本方針」の内容はおおむね妥当と考える。詳細には以下の通り、一部修正をお願いしたい。

[修正案]

- (1) 平成11年実施予定のカリキュラム改革策定の基本方針
 - ①平成5年10月6日教授会で決定された現行カリキュラムの基本理念を継承する。
 - ②科目配当や統廃合, 科目名称の再検討等現行カリキュラムの不備は是正する。
 - ③平成9年12月18日臨時教授会で承認された8期セメスター制を導入する。このため原則として4単位科目は2単位に2単位は1単位に分割する。必修・重要基本科目は各コース・分科会に検討を依頼する。
 - ④新設科目を容認する。その場合, 現開講科目の統廃合を原則とする。
 - ⑤セメスターの開始年次は平成11年度新入学生から学年進行とする。ただし, 時間割編成が複雑化するので事務担当と慎重に討議する。なお6コースの履修モデル表は統一する。
 - ⑥兼任講師, 教務事務, 在籍・新入学生等への対応を充分はかる。
(⑦は削除)
2. 6コースの履修モデル表の統一様式の検討
別紙1の通り様式を統一するとともに, 記入例として別紙2を提示する。
3. 各コース・分科会への諮問内容の検討
各コース・分科会への諮問には, 以下の内容を盛り込むものとする。

[共通部分]

- ①導入当初の混乱を避け、 Semester制へスムーズに移行させるために、第1ステップとして、現行の4単位科目は単純2分割を原則とし、Semester制の枠組みをまず設ける。成績評価は各Semester（前期・後期）ごとにおこなう。
- ②科目名称は現行名称の後ろにA・Bをつけて2分割する。（ただし、現行の総合講座A, B, Cはそれぞれサブタイトルを付けた名称に変更した上で、4単位のものはそれぞれA・Bに分割する。）
- ③現行の科目名にI・II等のローマ数字のつくもの（内容に階層性のあるもの）はそのまま残し、さらにA・Bをつけて2分割する。
- ④Semester制は学年進行とするが、授業形態としてはSemester制をベースとし、旧カリキュラム学生と新カリキュラム学生は共通で履修する。このさい、旧カリキュラム学生は2分割された講座をあわせて履修し、旧科目名として読み替える（成績評価は前期・後期の合点とする）。また、新カリキュラム学生も導入当初はA・Bだけあわせて履修させる（授業内容の混乱を避けるため）。新カリキュラム学生の成績評価はSemesterごとにおこなう。このため、旧カリキュラム学生用と新カリキュラム学生用には別々の学生要覧・シラバスを作成する。
- ⑤「商学部入門講座」および「プロゼミナール」は、上記の原則に従いそれぞれ前期・後期のA・Bに分割する。
- ⑥科目新設は現行科目の統廃合を原則とする。

[各コースへの諮問]

- ・必修科目、選択必修科目以外にも「推奨配当年次」の検討、ならびに科目の新設・統廃合の有無の検討を各コースに要請する。
- ・コース別履修モデル表（別紙1, 別紙2）参照。

[人文自然・外国語・体育・教職各分科会への諮問]

- ・現行科目は原則として2分割するとともに、科目の新設・統廃合の有無の検討を要請する（下記「法学部との共有科目」の項も参照）。
- ・各分科会新設・統廃合科目表（別紙3）参照。

[法学部との共有科目について]

- ・人文自然系列科目のうち、「国語」・「プロゼミナール」・「スポーツ健康科学概論」・「総合講座A, B, C」以外のすべての科目は、法学部との共有科目である。

- ・外国語科目のうち、英語（再履修を除く）以外のすべての科目（ドイツ語、フランス語、中国語）は、法学部との共有科目である。
- ・留学生対象の必修科目は、すべて法学部との共有科目である。
- ・教職課程科目は、商業科関連を除き、すべて法学部との共有科目である。

上記科目を含め、セメスター制を全面实施する場合は、両学部長ならびに学長の合意をもとに、全担当教員への説明・同意（前期・後期それぞれに成績評価を提出していただく件）が必要である。また、法学部所属の非常勤講師への委嘱は、法学部長を通じてセメスター制への対応を依頼する必要がある。

以上の点が解決しない場合は、平成9年12月2日付答申第2ページにあるとおり、法学部との共有科目は従来通り通年科目とする。

4. 将来的な欧米型セメスター制（半期4単位）移行の検討

平成11年度は前述のように、導入時の混乱を避け、セメスター制への移行をスムーズにおこなうために、第1ステップとして現行科目の単純2分割を原則とし、新カリキュラム学生も旧カリキュラム学生もA・Bセットで履修させる。

法学部のセメスター制導入・学年進行の終了時に、第2ステップとして各科目の内容見直し（圧縮、科目数の削減など）をおこなう。これにより、すべての科目が各セメスターごとに完全に独立して履修できるようになる。また、必修科目の配置なども本来の目的に沿った形でおこなう（2セメスター連続開講など）ことができる。

欧米型セメスター（週2回4単位）実施は、非常勤講師への委嘱の問題とともに、上記第2ステップ到達後にあらためて検討すべきと考える。

（追記）

各コース・分科会からの答申は4月末日までをお願いしたい。

以上

（3）平成10年度教務委員会における「商学部入門講座 改革案」

（平成10年7月1日教授会提出——資料⑧）

平成10年度の教務委員会において、「商学部入門講座」の改革案についての審議を平成10年5月12日および5月21日に行い、その結果資料⑨に示し

た改革案を作成した。そして平成10年7月1日に行われた定例教授会の審議事項「平成11年度商学部カリキュラム改革」の中において一括審議がなされ、原案の基本方針は可決された。具体的運営等については、今後検討がなされることとなり、「商学部入門講座」も従来とは異なった大きな変革期を迎えることになった。

資料⑨

商学部入門講座 改革案

① 前期

教務ガイダンス等がおこなわれる時に第1回商学部入門講座のガイダンスも行う。

その後前期において各コース2回の授業を行う。

これにより、本学商学部の学生としての基礎的知識を習得させる。

2時間にわたる講義内容は、学生にとって2年次からのコース選択の指針となるような講義内容を行い、2時間目の最後の30分程度で、講義についての簡単なレポートを書かせ、それを評価点(a)とする。

2時間の講義は原則として一人が続けて行い、レポートの評価まで行う。

学生は最終授業終了後、教務課に出向きコース選択の用紙の入手および希望コース記入後教務課に提出する。(なお用紙の配布、提出先は教務課でなく、パソコンを利用し受け付けることも可能と考える。アンケートを実施する場合も、パソコンを利用すると集計等が迅速に行えるであろう。)

② 後期

学生はすでにコースが決定しているので、後期から学生は各自が選択したコースの講義を受講する。

講義は各コースがそれぞれ1教室を使用し、そこにおいて各コースの基礎的知識等も含め講義を行う。講義回数は15回とする。講義内容については、各コースにおいて決定し、学生の成績評価まで行う。

総合評価は以下のように行う。

前半(前期)の場合

- a. 各コースで行ったレポート評価点を合計する。(各コース10点満点で合計60点)
- b. 出席点(全出席を40点, 出席日数により変化する……今までの評価を適用する)

a + b 100点

前期における総合評価の作業は, 入門講座世話人が行う。

入門講座世話人の業務

- ・ガイダンスにおいて, 入門講座の説明。
- ・各コースから提出された評価点を, 学生毎に集計する。(ア)
- ・出席点の評価付けを行う。(イ)
- ・(ア)(イ)の合計点を出し, 学生の個人評価を決定する。
- ・担当教員のコマ数のカウント

後半(後期)の場合

各コースにおいて出された評価点を, 後期の評価点とする。

入門講座世話人の業務

- ・各コースにおいて出された評価点を取りまとめる。
- ・担当教員のコマ数のカウント